

論点	留意点	検討の方向性	記載のイメージ／取組の方向性
1. 中長期的なビジョンを作成する目的はなにか。	● 多様な関係者ごとの目線（国民目線、業界目線、行政目線等） ● 多様な関係者のそれぞれの役割・責務 ● 基礎的な技術基準整備の継続と新技術等への対応等への期待	● より良い社会資本としての建築物・市街地を構築するための建築分野の方向性を示す ● 投資予見性、技術開発の方向性、人材確保・育成の計画性に必要な道筋	● 建築分野の方向性の全体像を、相互に理解しながら、産官学の関係者がそれぞれの役割を果たす
2. 建築分野において目指す社会像について、どのような展望を示すべきか。	● わかりやすく、心をつかむ展望（キャッチフレーズ） ● 安全確保など地道な取組をベースとして、夢を持てる、楽しいと思える展望 ● 社会全体の方向感と建築分野の方向感の両面を考慮 ● 建築分野の射程の広がり（社会との接続） ● 平時と災害時を考慮	● 社会資本としての建築・市街地のあり方 ➢ 建築の公共性の再定義 ● 理想的な将来像のイメージ	● 建築を「使いこなす」という意識 ● 既成市街地を前提としたまちづくり ● 建築に関わる関係者が生き生きとする社会 ● 企画・設計・建設・維持管理などの建築行為の新たな展望 ● 地域の経済を支え、資金を呼び込み循環させるストック活用の方向性
3. 中長期的なビジョンは、どの程度の先の社会を見据えるべきか。	● 建築物のライフサイクルの長さ（物理的には100年～150年ものもある） ● 大規模建築プロジェクトに要する期間が長期間となること ● ストックの有り様 ● 社会構造の変革点 ● 都市又は地域の特性 ● 住生活基本計画等の他の計画の目標時期	● 2050年などの中長期的なスパンを見据えて、今後10年程度のビジョンを検討	
4. 中長期的なビジョンを検討するにあたり、考慮すべき社会の変化は何か。	● 人口動態等の社会全体の動向 ● 建築産業に直接的に関与する事象だけでなく、他分野（医療、物流、消費活動等）における動向 ● 基準や制度の前提条件が大きく変わるDX（AIなど）や技術の進展などの社会の動き ● 高齢化や生活圏の縮小に伴う、市街地における多様な用途へのニーズ	● 人口動態（住み手・働き手（様々なレイヤー）） ● 既存ストックの状況（国全体のポートフォリオ） ● 用途・価値観の多様性 ● 地球環境問題（気候変動、災害の激甚化・頻発化） ● 物価高騰 ● …	● 担い手不足に対応した役割分担や品質の確保方策 ● 組織的な対応が可能となるような環境整備
5. 目指す社会像の実現に向けて、どのような取組が求められるか。	● 建築物・市街地に着目した施策だけでなく、建築業界全体が持続できるよう、担い手、市場環境整備に関する施策を強化 ● 新築に比べて圧倒的多数を占めるストックを活用する取組を、ビジョンの中心に位置付け ● SDGsやESGなど建築分野でも注目されている市場動向にも着目 ● 国が取り組むべき事項と他の産官学の関係者が推進する事項の整理 ● ビッグデータやシミュレーション技術の活用 ● 建築単体のみならず立地や周囲との関係性も考慮	● 以下の視点ごとの取組事項を整理してはどうか。 ① 建築物・市街地（モノ）のあり方 ② 建築を支える担い手（ヒト） ③ 建築を支える環境・仕組み（社会） ● 地域で顕在化する課題や課題対応策を早期に反映できる枠組 ● 技術開発を促す枠組	● 既存建築ストック・既成市街地の活用 ● 適切な維持管理 ● 建築物・市街地に求める性能のあり方 ● 建築物・市街地の継承 ● 建築行政の体制確保 ● 建築生産の体制確保 ● 建築物・市街地の評価 ● 建築リテラシー ● DXの徹底 ● 上記取組検討に当たっては、安全性確保と手続き負担軽減の両立も考慮

<凡例>

赤字：中長期あり方検討懇談会でのとりまとめからの反映

青字：集団規定検討委員会でのとりまとめからの反映

緑字：建築分科会等での委員意見を反映